

第1回地震等災害被害予測調査検討有識者会議 概要

1 日 時 令和7年8月6日（水）10時00分～11時30分

2 場 所 県行政庁舎 7階 7－A－2会議室

3 出席者

中尾委員，柿沼委員，中道委員（※），酒匂委員，地頭菌委員，福和委員（※），奥村委員，廣井委員，磯打委員，入江委員（※），前田台長
※ オンライン出席の委員

4 議事概要

(1) 地震等災害被害予測調査事業の概要と有識者会議の設置について

- ・ 委員の互選により地頭菌委員を座長とすることに決定
- ・ 座長の職務代理者については，酒匂委員とすることに決定

(2) 災害想定について

- ・ 前回調査と同様に，鹿児島湾直下や南海トラフなど11の地震と桜島の海底噴火2地点を想定地震等とすることについて了承された。
- ・ 前回調査と同様に，県内全市町村の直下にマグニチュード6クラスの地震を設定することについて了承された。
- ・ 十島村については，今回のトカラ列島近海で発生した地震を踏まえ，悪石島・小宝島付近の地震（震源）を新たに追加することについて了承された。

(3) 調査項目について

- ・ 国の南海トラフ地震の被害想定見直しで追加された項目を今回の本県調査に追加することについて了承された。

5 委員からの主な意見等

<災害想定について>

- 新たに追加する悪石島・小宝島付近の地震について，地震発生メカニズムがはっきり分かっていないため，地震を中心に検討するのは現実的だと思うが，津波の調査をしないことにより，この地震が津波を伴う現象ではないと誤ったメッセージとして伝わらないよう注意しなければならない。
- 桜島の海底噴火における噴火発生地点について，東側は，236年前の安永噴火の時に海底隆起と海底噴火で津波が起こっているが，北側の場合は前回調査時にどういう経緯で入れたのか承知していないので，それも含めて検討

したい。

- 南海トラフ地震の取扱いについて、国の被害想定で行われた半割れ地震の想定を行うのか。最大クラスの地震というのは最悪を考えているのであって、比較的起こりやすい南海トラフ地震については考えなくていいのか。行政が防災対策をどう進めていくのか、そのために被害想定をどのように進めるのか整理することが、県民への説明という意味で大事だと思う。
- 沖縄県の被害想定を見ると、南西諸島海溝など過去の八重山の大津波を想定している。鹿児島県の離島部においては、沖縄県近郊で発生する津波により大きな影響を受けるのではないかと。

<調査項目について>

- 南海トラフ地震では、津波の影響等で港湾の使用が困難になり、離島への船が出しにくくなるとされる。その場合、離島がどのくらいの期間、本土とのアクセスがなくなるか。例えば物や食糧等が運べない状況が起こりうるのか、定量的な想定は難しいと思うが、そういった想定も必要である。
- 前回の調査結果を見ると、シナリオで想定するシーンとして、都市部を想定した内容となっていると思われる。鹿児島県の事情・特徴を踏まえた調査を行うことに、県が独自に被害想定をする意義があると思うので、県の状況に合わせたシーンの設定や被害想定項目の追加を行う必要がある。
- 被害シナリオを作ると思うが、例えば死者数を算定する時に十数年前の被害想定と異なり人流データがあり、住民ではない方たちが最も多く訪れるタイミングはどの時期なのか、民間企業のデータを使えば簡単に把握できる。能登で感じたのは、そこに住んでいる方たちが中心となり防災が進むのではなく、故郷を思う家族が里帰りした時に、家具を固定する、住宅の耐震化の話をするとか、住んでいる人以外も巻き込んで防災が進むという、関係者人口を念頭においた防災の取組は重要。それも鹿児島県独自に考えるシナリオとして入れるべきかもしれない。